

令和6年度

第3回特別支援学級運営充実推進委員会

令和6年度特別支援学級に関する アンケートの結果報告

新担任用

回答期間と対象について

回答期間

令和6年12月9日（月）～令和7年1月31日（金）

対象の新担任

154名

回答数・・・・・・・・118件

回答率・・・・・・・・76.6%

新担任用

アンケート結果について

調査結果

※別紙参照

令和6年度特別支援学級に関するアンケート（新担任用）					【別紙1】
					(%)
質問項目（1.職種 2.教職経験年数）	とてもあてはまる	少しあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	
3. 普段から特別支援学級ハンドブックを参考にしてている。	29	56	12	3	
4. 新担任研修後も特別支援学級ハンドブック巻末の「専門性チェックシート」を活用し、自己分析をしていきたい。	34	56	8	2	
5. 児童生徒の実態把握において、家庭での様子等を伺うなど「保護者との連携」を心掛けている。	85	14		1	
6. 保護者面談等とおして、本人・保護者の願いや思いを知り、個別の教育支援計画や個別の指導計画に反映している。	77		23		
7. 児童生徒の良いところや課題を保護者と共有し、指導や支援に活かしている。	78		21	1	
8. よりよい指導に向け、特別支援教育に関するオンライン研修システム（「あどばいすタイム」や「特別支援教育に関するeラーニング」）を自主的に活用して研修している（新担任者研修及び特別支援教育推進月間での利用を除く）。	21	49	26	4	
9. 総合教育センターホームページ「特別支援まなびの広場」や特別支援教育課「Instagram」等を活用し、特別支援教育に関する情報を収集している。	14	47	28	11	
10. 研修等とおして、「ポジティブ行動支援」の考え方が理解できた。	76		23	1	
11. 担任する学級では、「ポジティブ行動支援」を実践している。	55		43	2	
12. 児童生徒の特性を理解した、合理的な配慮を実践している。	61		38	1	
13. 県内の特別支援教育に関する各種取組の成果を発表する「特別支援教育実践研究報告会」に参加したことがある。（または、参加したいと思う。）	20	48	15	16	
14. 勤務校は、先輩の先生や特別支援教育コーディネーター等に悩みや困ったことを相談しやすい環境である。	69		25	6	
15. 勤務校では「校内委員会」や「ケース会議」が開催され、児童生徒についての情報共有が図られている。	67		29	4	
16. 勤務校は、学校全体で「ポジティブ行動支援」に取り組んでいる。	48		45	7	
17. 特別支援教育巡回相談員や総合教育センター特別支援・相談課等に自校の取組に関する相談ができることを知っている。	52		39	6	3
18. 特別支援教育巡回相談員の活用や外部機関とのケース会議など、特別支援教育コーディネーターを窓口とした関係機関との連携ができています。	49		44	4	3
19. 研修以外の機会に、他校の特別支援学級担任と連絡を取り、取組について相談したり、情報交換したりしたことがある。	27	33	24	16	
20. 児童生徒が利用している放課後児童クラブや放課後等デイサービス等と情報交換したり、支援の共有を図ったりしている。（利用している児童生徒がいる場合のみ回答してください。）	32	45	16	7	
自由記述（御意見・御要望等）（※一部抜粋）					
・研修お世話になりました。支援の担任者研修は、とても勉強になりました。また、研修時に、他行の先生と情報交換をする機会や高等部の先生や巡回相談の先生に相談することができたので、とても勉強になりました。					
・定期的に仲間と語り合える機会（zoomでも構わないので）確保して頂きたいと思う。					
・特に、兼任で2つの学年を担当していると交流学級との連携の取り方が難しい。					
・生徒によって必要な支援のレベルが異なるので、新担任者研修で学んだこと以外の個別の事例については、					

新担任用